伝えておきたい小田原の 戦争と平和

発　行：小田原市総務課
小田原市荻窪 300 番地　TEL 0465-33-1291
協　力：戦時下の小田原地方を記録する会
平成 29 年(2017)3 月　発行

小田原のまちにも、かつて、いまわしい戦争がありました。
直接戦争に関わらなくても、何らかの形で戦争を支える、いわゆる「銃後」としての役割を負わされ、
戦争末期には、本土決戦部隊が駐留し、上空を米軍戦闘機が飛び交い、
敗戦の日（1945 年 8 月 15 日）には B29 による空襲を受けました。
戦争が終わって 70 年余り、戦争と平和に向き合いながら、
市民の誰もがこのまちと暮らしを大切に守っていきたいと考えています。
市内に残る数々の「戦争を伝えるもの」は、そのための大切な資料になるはずです。

小田原市平和都市宣言

わが国は　世界で唯一の核被爆国であり
国民は　日本国憲法にもとづく恒久平和の実現をめざし
世界から核兵器を廃絶することを共通の願いとしています
わたくしたちのまち小田原は
過去に戦災を被るという悲しい歴史を持っています
そして多くの歴史的文化遺産を守り続けているわたくしたちには
こうした惨禍をくり返すことのないよう平和を守り
きらめく城下町を次の世代へ引き継いでいく責務があります
小田原市は　美しい地球を大切にし　輝かしい人類の未来を信じ
世界平和を実現するため
ここに永久に平和都市であることを宣言します

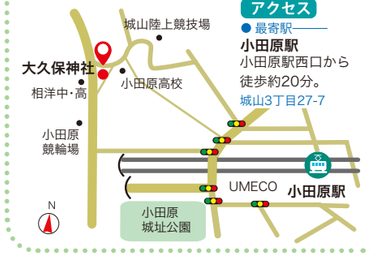
14 瓜生外吉海軍大将の胸像

南町にある山角天神社の社に上がる階段脇に胸像が建っています。胸像の主・瓜生外吉は日露戦争の日本海海戦に参戦した海軍軍人です。神社近くに別邸を構えていました。妻の繁子は岩倉使節団に同行した留学生の一人で、財界で活躍し晩年は小田原で茶人として名を残した益田孝（鈍翁）の妹です。瓜生は山角町（現 南町）の人たちに慕われていました。胸像は東京の瓜生邸から運んできたもので、死去 1 年後の 1939 年、除幕式が行われました。

アクセス
● 最寄駅―― **小田原駅**
小田原駅から徒歩約20分。小田原城址公園南入口から徒歩約7分。山角天神社境内内。　南町1丁目5-37

15 大久保神社の砲弾

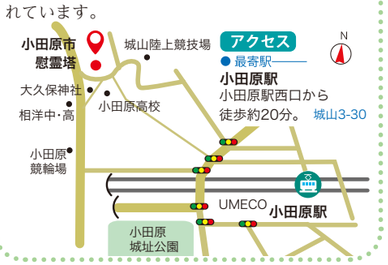
大久保神社には日露戦争の「戦利兵器」の砲弾があります。台座には陸軍大臣寺内正毅による、1907 年 3 月付の「戦利兵器奉納ノ記」が刻まれ、日露戦争の勝利の記念物として、戦利品の砲弾を神社に奉納することにより、国の隆盛を祈ると書かれています。また、近くの県立小田原高校には、当時の校長が教育上の資料として、日露戦争に参加した小田原出身の海軍軍人関重忠少将の協力により譲り受けた日清戦争の戦利品である清国の軍艦の「鎮遠の鐘」があります。



アクセス
● 最寄駅――
小田原駅
小田原駅西口から徒歩約20分。
城山3丁目27-7

16 小田原市慰霊塔

1957 年 10 月 29 日、小峯公園（現 城山公園）で「小田原市戦死者慰霊塔 竣工式並びに合同慰霊祭」が挙行されました。完成した塔の高さは 12m、題字の揮毫は元市長鈴木英雄、碑文は当時の市長鈴木十郎の撰書です。明治以来、日本の戦争で亡くなった市全体の戦没者 2858 名の慰霊のために建立されました。現在も市遺族会により、原則毎月 29 日に、清掃奉仕と市仏教会並びに川東仏教会僧侶による読経供養が行われています。



アクセス
● 最寄駅――
小田原駅
小田原駅西口から徒歩約20分。　城山3-30

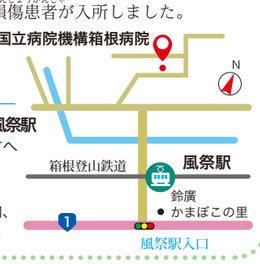
17 松永記念館の本土決戦陣地跡

松永記念館の老舗荘の入口付近の裏の崖に二つの扉がついた入口があり、それぞれの内部はかまぼこ型の広い空間になっています。この横穴は、本土決戦のために作られた地下壕と考えられます。足柄平野には 1945 年 4 月頃より第 84 師団が本土決戦のために駐留しますが、最初に行ったことはこのような地下式陣地の構築でした。近くの大窪国民学校には、野砲兵第 84 連隊の一部が駐留しており、その関連施設とも考えられます。＊安全上、陣地跡の見学はできません。

アクセス
● 最寄駅――
箱根登山鉄道 箱根板橋駅
箱根板橋駅から西方へ
徒歩約10分　板橋941-1

18 傷痍軍人箱根療養所（本館と奉安殿）

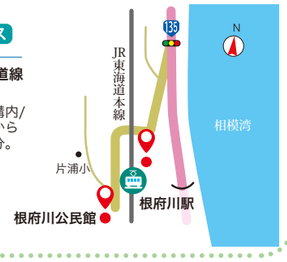
風祭の国立病院機構箱根病院内にあります。日露戦争の戦傷者を収容するための施設であった廃兵院は、1906 年に東京巣鴨に設立されました。その後、廃兵院は傷兵院と名称変更した後、1936 年に風祭に移されました。この建物（本館）は、その際に新設されたものです。また当時の建物として奉安殿（天皇・皇后の御真影や教育勅語などを収めていた建物）が現存しています。1940 年には傷痍軍人箱根療養所が併設され、戦傷脊髄損傷患者が入所しました。



アクセス
● 最寄駅――
箱根登山鉄道 風祭駅
風祭駅から北方へ
徒歩約５分。
国立病院機構
箱根病院敷地内、
南側。　風祭 412

19 根府川駅舎の機銃掃射弾痕と句碑

1945 年 7 月末から小田原地方は連日、米軍小型機による空襲を受けました。低空で飛び交う米軍機からの機銃掃射は人々を恐怖のどん底に落としました。ＪＲ根府川駅の上りホーム（階段下附近）の屋根の柱に機銃掃射の弾痕を確認することができます。また、近くの根府川公民館には高射砲陣地が作られていました。その高射砲部隊の元兵士が 1988 年、その地に陣地があったことを詠んだ句碑を建てました。



アクセス
● 最寄駅――
ＪＲ東海道線 根府川駅
根府川駅構内/
根府川駅から
徒歩約２分。
根府川92

8月15日の小田原空襲

1945 年 8 月 15 日、まさに敗戦当日、深夜 1 時～ 2 時頃、小田原は米軍の戦略爆撃機Ｂ 29 一機による焼夷弾空襲を受けました。空襲の直前には、埼玉県熊谷市と群馬県伊勢崎市が空襲を受けており、その二都市を攻撃した編隊のうちの一機が、マリアナ諸島の米軍基地へ帰還する途中に小田原を空襲したものと考えられます。米軍のその日の作戦任務報告書には小田原空襲の記載は一切なく、計画されたものではありませんでした。

しかしながら、米軍の日本都市空襲の候補地が記された「180 都市の表」の 96 番目には小田原が挙げられています。米軍は都市空襲を実行する場合には、投下目標地点を記した航空写真地図「石版集成図（リト・モザイク地図）」を作成しており、小田原についても 1945 年 3 月に上空から航空写真を撮影し、同年 7 月には「石版集成図」が完成しています。したがって、いつでも小田原への空襲が可能状態であり、横浜市や平塚市と同じように壊滅的な被害を受けた可能性があります。

8 月 15 日の小田原空襲で被災し炎上した地区は、現在の浜町一・三丁目、本町二・三丁目にまたがり、国道 1 号をはさんで国際通りの両側にあたります（被災地図参照）。消失した家屋は約 400 軒、死者は「戦時下の小田原地方を記録する会」の調査によれば 12 名です。

被災した古清水旅館（当時）を撮影した 2 枚の写真が残っています。そのうちの 1 枚（写真参照）には、建物がすっかり焼け落ちた古清水旅館の後方に、焼き尽くされた小田原の町並みが映っています。

11 小田原空襲説明板

本町の高齢者専用賃貸マンション「プラージュ古清水」の入口に設置されています。敗戦の日（1945 年8月 15 日）の小田原空襲についての説明板です。2007 年に同地にあった古清水旅館館主の清水伊十良さんと、戦時下の小田原地方を記録する会によって旅館の敷地に建てられました。その後同館の廃業に伴って移設したものです。マンションの2階には古清水旅館の空襲被災資料等を展示した私設資料館があります。

アクセス
● 最寄駅――
小田原駅
小田原駅東口
から
徒歩約15分。
本町三丁目5-27

ＤＶＤ「戦争のない平和な社会を次の世代へ～小田原にも空襲があった～」
小田原市では、小田原空襲の体験談の記録映像をＤＶＤ（１７分）にまとめました。ＤＶＤは小田原市総務課で貸出しをしています。
市ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。
小田原市ホームページ